



座談会

# 歴史から学ぶ大地の凸凹管理術、 未来の防災に活かそう!

大倉山周辺と鶴見川 出典：国土地理院。国土地理院の地理院タイルを元にカシミール 3D で加工

2017

2/12(日)

13:30~16:00

要申込・参加無料  
定員40名

定員になり次第締め切り  
対象：大人(小学生高学年以上)  
申し込みは裏面へ

篠原城の立地や人々のくらしが大地の凸凹に呼応していた歴史を掘り起こします。温暖化が予想される未来はくらしも災害も流域から再発見。一人ひとりが自主的に行動できるようにするにはどうしたら良いか考えましょう。

●会場：地域防災施設鶴見川流域センター・1階コミュニティールーム  
プログラム※1

登壇者

- 金子 和夫氏 【篠原城と緑を守る会（水マス推進サポーター※2）、郷土史研究家】  
臼井 義幸氏 【鶴見川舟運復活プロジェクト（水マス推進サポーター）、郷土史研究家】  
岸 由二氏 【慶應義塾大学名誉教授、河川分科会委員、ドラゴンウォッチの会（水マス推進サポーター）】

歴史をたどる

- 篠原城から学ぶ 中世城郭と立地について  
篠原城から学ぶ 表谷戸のくらしと水害

現在の小流域土砂災害を考える

座談会 参加者も含めた意見交換

鶴見川流域水マスタープランの解説

ワークショップ 減災行動シミュレーション

※1 プログラムは変更となる場合があります。

※2 水マスのビジョンにそって「流域貢献活動(流域 CSR 活動)」をすでに行っている団体・企業を「水マス推進サポーター」として認定し、それぞれの主体による「流域貢献活動」を通じて、水マス推進のための情報交換や活動連携の輪に加わっていただくための仕組みが「水マス推進サポーター制度」です。